



題字 弦巻 靖 氏

2011年度 支部通常総会終了致しました。

2011年度、支部通常総会が5月20日(金)にJRタワーホテル日航札幌において開催されました。総会では下記議案が承認されました。

議案

- 第1号議案 2010年度 事業報告書の承認
- 第2号議案 2010年度 支部決算書の承認・会計監査報告
- 第3号議案 2011年度 事業計画書(案)の承認
- 第4号議案 2011年度 支部予算書(案)の承認
- 第5号議案 役員改選の件



二瓶支部長



総会の会場

総会終了後、(社)日本建築構造技術者協会北海道支部 主催による講演会を開催いたしました。

技術委員長 島田知典

2011年度 JSCA北海道支部 通常総会の後、「愛知県からみた北海道の地震防災～公共政策から私的対策まで～」と題して、北海道大学 岡田成幸教授をお招きして、地震防災に関する幅広い知見をお話頂きました。3月11日の「東北地方太平洋沖地震」の記憶もまだ生々しく、私も含め会員一同、熱心に聴講する事が出来ました。北海道の交通網に関する弱点を気づかされたり、最新の技術研究の一端を垣間見たりと、有意義な講演会となりました。



講演会の様子

構造設計交流会報告

JSCA北海道支部 山脇克彦

■ はじめに

6月19日(日)15:00~18:00北海道大学工学部MUTSUMIホールにて、構造設計交流会を開催いたしました。7作品の発表があり、JSCA会員はもちろんのこと、若手設計者や非会員の方、学生など40名の参加がありました。発表者の熱い思い、会場からの多様な意見や質問など、学生を含めて相互に発言しあう盛り上がった交流会になりました。
以下、個人的な感想も含めつつ、詳細報告いたします。

■ 第一の目標 「道内構造設計者の交流」

7作品の発表はレストランから大規模工場、木造、免震構造、ファサードなど、多種多様な作品が集まりました。7分の作品発表および3分の質疑応答の短時間の中、構造設計者どうし、有意義な意見交換を行うことができました。一方で全員の発言を期待するあまり、そして時間の都合上、本格的な議論にまでは踏み込めなかったと感じています。それでも40名の参加者の半数以上の発言があり、参加型・相互発信型の有意義な交流を行うことができたと感じています。



和やかな雰囲気交流会

■ 第二の目標

「若手設計者や学生に構造設計の役割や楽しさ(苦しさ)を伝えること」

7作品は構造設計の役割や楽しさを存分に示し、若手設計者にとって所属事務所以外の構造設計者の作品を深く知ることができる極めて有意義な会となったと感じています。学生にとっても、完成作品やインターネットでは決して感じる事ができない、構造設計者の生の発言に触れ、得るものは大きかったのではないかと感じています。また講演を聴くだけでなく発言することでより深い体験になったことと思います。



若手・学生も多く参加



会場から質問



長谷川氏持参の異形鉄筋D32にびっくり

■ 第三の目標

「構造デザイン発表会への推薦作品の決定」

今年10月に東京で行われる「JSCA構造デザイン発表会」への支部推薦作品は、4人の発表者が発表意思を示し、下表の4作品となりました。支部からの発表者には、JSCA本部よりJSCA規定交通費の半額補助を受けることができます。なお、残り半額の補助について、北海道支部にて検討を行うこととなりました。

なお、当日参加者の全員が人気投票を行い、「陸別小学校 田原一徳/北海道日建設計」さんが見事、一位を獲得しました！発表者全員に記念品(1st PRIZE(1位):タイルサンプル製、WINNING A PRIZE(入賞):新日軽ご提供アルミハニカムパネル製)が贈呈されました。



ご講評(二瓶支部長、羽沢氏、向山氏、西浜氏)



発表者と二瓶支部長

発表作品

	タイトル	発表者/所属	構造デザイン 発表会応募
1	巨大走行クレーンを有する工場 某工場増設工事	今 治宣/㈲ケー・エス・イー建築設計 伊藤展夫/伊藤設計事務所	
2	北洋大通りセンターメインエントランスファサード ガラスを支えるフラットバー	宮城正弘、石丸修二、山脇克彦 /㈱北海道日建設計	
3	東京理科大長万部女子寮	長谷川圭一/㈱竹中工務店	
4	(仮称)クリーンセンター建設工事	安田俊幸/鹿島建設(㈱)北海道支店	
5	ザ・バーン ギャンブルル屋根のレストラン	山木優敬、佐久間拓/CSA合同会社 (代理発表：山脇克彦)	
6	市立根室病院 段差を有する敷地に建つ免震構造建物	宮本 守/㈱石本建築事務所札幌支所	
7	陸別小学校 集成材による大空間	田原一徳、石丸修二、山脇克彦 /㈱北海道日建設計	

次回へ向けての改善点

- ・会場は変更すべき。ただしアクセスやすく開放的で参加しやすい会場がよい
- ・参加者を増やすべき。JSCA全会員が一度は参加すべきと考える。非会員・学生への周知方法も戦略が必要
- ・写真かイラスト入りのチラシを作成したい。お金はかけない。メールやネットでの配信が効果的。
- ・あまりの大人数は発言しにくい雰囲気になりがちなので工夫も必要か。
- ・発表経験を積む意味でも、発表者を増やすべき。ただし今回7件で3時間の会議となり、最大10件、4時間の会議が限界か。
- ・経験年数が浅い若手同士の交流会（勉強会くらいの位置づけか）を別途企画してもよいかも。
- ・配布資料があったほうが理解しやすい。次回は建築概要だけでも配布資料作成を義務付けるか。
- ・開催は日曜日よりも土曜日がよいか？

以上

「東日本大震災に出向いて・・・」

JSCA北海道支部 顧問 吉岡 尊志

3月11日14時46分、日本観測史上最大のM9を記録し、沿岸部は10m以上の大津波が、発生し壊滅的な被害をもたらしました。国難というべき災害に対して4ヶ月以上を経過したがいまだに原発を含め、復興に向けての具体的な施策が示されていない現状である。



ガレキを前に・・・

私は、大手保険会社から地震保険の鑑定業務を依頼された。通常は被害が発生した場合専属の鑑定士が動くのが一般的であるが、この度の災害規模は大きすぎるため建築士の応援を求められたものである。早速、仲間に声をかけ、“JSCAシニア5人組”が山形空港経由で現地に入った。

4月18日から約1ヶ月間、仙台市内のホテルに泊まり込み仙台市を中心に宮城県内の被災建物を鑑定した日々の体験の一端を紹介する。

私は、阪神淡路大震災と中越地震で応急危険度判定のボランティア活動をしたが、今回は地震保険加入者に保険金を払う初体験の作業である。保険会社の社員とペアを組み、前半はマンション、アパートを1日2棟程度、後半は一般住宅を1日4棟のペースで鑑定にあたった。移動はタクシーをチャーターしていたため地理不詳の我々にとってスムーズな作業ができた。鑑定方法は国と損保会社が阪神淡路大震災の後に作成されたマニュアルに従い被災度を数値で評価して、全損(100%)、半損(50%)、一部損(5%)無損(0%)を判定し、保険金を即決で支払う多少乱暴な作業でもあった。

判定方法では、我々構造技術者にとって矛盾する規定が多少あり、仲間達と度々議論を交わした。各地から集まった建築士は意匠系が多いせいも、北海道チームに相談を求められる場面もあった。何れにしても未曾有の災害であり、“被災者にお見舞いを配慮し保険金を速やかに支払う”という大方針から割り切って業務にあたった。私は被災者保護の立場に立って優位な鑑定に努めたが被災者には気遣いの作業であり、一緒に仲間たちもストレスが溜まる日々であったが気慣れた仲間と一緒に助かった。委託された大手保険会社は、毎日数千人規模で8万棟を2ヶ月で処理するのが目標と聞いていたが、帰る頃はほぼ達成の目処がついた様でここは保険会社のサービス競争と感じ取れた。

鑑定の合間に宮城県の津波地域を視察した。360度全てがガレキに覆われ、想像を絶する光景がどこまでも続いていた。マスクはしたが眼がチカチカ、たぶん微粉末のほこりが舞っているだろう、このガレキが片付くのは何時になるのか、被災者にとって絶望的な気持ちの手にとるようにわかった。報道では現在も日々復興の様子や動きが紹介されているが、日本人の助け合いの気持ちと絆の強さに感動する場面も多く、反面、日本の政治家たちは何をやっているのか、という苛立ちと失望感が今でも続いている。

今回は震度6強にも関わらず建物の被害は、ほとんどなく津波がすべて被害の大きさを物語っている。もし津波さえなければ2万人の死者が100人以下であったろうし、原発問題がなければ現在東日本大震災は忘れ去られる頃ではないだろうか、そして東北の人々は平穏な生活を送っていることだろうと思うと気の毒でならない。

(同行者 富永利身、福本雅之、海老名雅之、打田敦彦)



ガレキ化した石巻沿岸



ガレキ化した仙台沿岸



津波で破壊されたコンクリート壁



津波で転倒したRC建物



津波で転倒したRC建物



津波で転倒したRC建物



引きちぎられた基礎くい



津波で建物に乗り上げた漁船



津波に耐えた新しい住宅



無惨な建物群(手前は、残った住宅基礎)



仙台市内RC造マンション

※吉岡氏提供の写真

「ティンバライズ建築展-都市木造のフロンティア in 北海道」 報告

JSCA北海道支部 広報企画委員 林 甲多

この度、2011.07.01～07.10の期間にて伝統や慣習に捕われることなく木造の新しい可能性を模索し、社会に広く提案していこうという木造の建築展が開催されました。

JSCA北海道としましては、『道内で活躍する研究者、建築家による札幌中心市街地での仮想の都市木造プロジェクトの提案展示』の構造アドバイザーという立場で協力させて頂きました。



札幌中心市街地での仮想の都市木造プロジェクトの提案展示
以下の作品について協力させて頂きました。



まほぶっくい ～都市の木束建築～
北海道大学大学院工学研究科
建築意匠学+建築計画学研究室



wooden 3×3m grid
室蘭工業大学建築社会基盤系学科
山田研究所+真境名研究所+gl



木柱格子群
札幌市立大学デザイン学部
空間デザインコース



音の箱
北海道工業大学建築学科 北海道日建設計
川人洋志研究室 + 山脇克彦



展示作品レビュー (1)
建築家による作品レビューを聞く参加者・閲覧者)



展示作品レビュー (2)
レビューを行う川人洋志先生と山脇克彦氏

〈まとめ〉

今回、ミーティングの段階から構造的なアドバイスという立場で参加させて頂き、熱意ある学生の方々に影響されとても良い刺激を受けました。

このような機会が増えれば、若い構造技術者にとって、どのような架構であれば無理なく実現できるか、意匠設計者の要望にこたえることが出来るかなど、構造計画を行うためのいい勉強になるのではないかと思います。

<p>2011年改訂版 「耐震改修促進法のための既存鉄骨建物の 耐震診断および耐震改修指針講習会」</p> <p>日時： 平成23年10月13日(木)～14日(金) 開催地： 札幌市 自治労会館 4階ホール 札幌市北区北6条西7-5-3</p> <p>定員： 150名</p> <p>受講料： 27,000円(税込、テキスト1の代金 (8,000円)含む。テキスト2の代金別)</p> <p>申込み締切： 開催1週間前、ただし、締め切り期日 前でも定員に達した場合締め切らせて いただきますので、お早めにお申し込み 下さい。</p> <p>主催： 財団法人 日本建築防災協会</p>	<p>建築士定期講習会(第三期・第四期)</p> <p>第三期</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>開催日</th> <th>開催地</th> <th>定員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>10月11日</td><td>北斗市</td><td>100</td></tr> <tr><td>10月19日</td><td>札幌市</td><td>500</td></tr> <tr><td>10月26日</td><td>帯広市</td><td>170</td></tr> <tr><td>11月11日</td><td>北見市</td><td>50</td></tr> <tr><td>11月16日</td><td>室蘭市</td><td>50</td></tr> <tr><td>11月25日</td><td>旭川市</td><td>150</td></tr> <tr><td>11月30日</td><td>札幌市</td><td>300</td></tr> </tbody> </table> <p>第四期</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>開催日</th> <th>開催地</th> <th>定員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1月25日</td><td>札幌市</td><td>500</td></tr> <tr><td>2月2日</td><td>釧路市</td><td>100</td></tr> <tr><td>2月8日</td><td>北斗市</td><td>100</td></tr> <tr><td>2月10日</td><td>北見市</td><td>50</td></tr> <tr><td>2月15日</td><td>帯広市</td><td>170</td></tr> <tr><td>2月20日</td><td>苫小牧市</td><td>100</td></tr> <tr><td>2月28日</td><td>旭川市</td><td>200</td></tr> <tr><td>3月7日</td><td>札幌市</td><td>500</td></tr> </tbody> </table> <p>※詳しいご案内は「財団法人北海道建築士会」 へ問い合わせください。</p>	開催日	開催地	定員	10月11日	北斗市	100	10月19日	札幌市	500	10月26日	帯広市	170	11月11日	北見市	50	11月16日	室蘭市	50	11月25日	旭川市	150	11月30日	札幌市	300	開催日	開催地	定員	1月25日	札幌市	500	2月2日	釧路市	100	2月8日	北斗市	100	2月10日	北見市	50	2月15日	帯広市	170	2月20日	苫小牧市	100	2月28日	旭川市	200	3月7日	札幌市	500
開催日	開催地	定員																																																		
10月11日	北斗市	100																																																		
10月19日	札幌市	500																																																		
10月26日	帯広市	170																																																		
11月11日	北見市	50																																																		
11月16日	室蘭市	50																																																		
11月25日	旭川市	150																																																		
11月30日	札幌市	300																																																		
開催日	開催地	定員																																																		
1月25日	札幌市	500																																																		
2月2日	釧路市	100																																																		
2月8日	北斗市	100																																																		
2月10日	北見市	50																																																		
2月15日	帯広市	170																																																		
2月20日	苫小牧市	100																																																		
2月28日	旭川市	200																																																		
3月7日	札幌市	500																																																		
<p>編集後記 1年ぶりの発行となりました。遅れたことをお詫 び致します。また、原稿を書いて頂いた皆様 には感謝申し上げます。</p> <p style="text-align: right;">広報企画委員長</p>	<p>発行 (社)日本建築構造技術者協会北海道支部 事務局 札幌市中央区北2条西2丁目 第二カミヤマビル TEL 011-221-3303 FAX 011-232-0003 http://www.jsca-h.net/</p>																																																			

